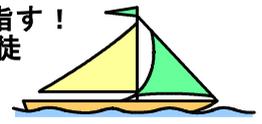


学校教育目標 「自分で考え、正しく判断し、最後までやり抜く生徒」の育成を目指す！

①求めて学ぶ生徒 ②心を高める生徒 ③たくましい生徒



# 小値賀物語3 第25話



令和4年12月8日発行

小値賀町立小値賀中学校 校長 池田英二 教頭 松本博之

今回の小値賀物語3第25話では、先日開催された「小値賀未来会議」「幼児ふれあい体験」「人権学習会」についてお知らせいたします。

## 小値賀未来会議（12月5日月曜日）6校時

小値賀町では、現在、令和6年度を初年度とする「第5次小値賀町総合計画」を策定されています。その策定のために、子どもたちの意見も反映させたいということで、小値賀中学校で「おちか未来会議」が実施されました。小値賀町役場総務課より委託された（株）百代より、橋本尚子様、南新太郎様、岡田ゆかり様に進行、サポートをしていただき、生徒たちは、小値賀町の良いところ、改善点等について話し合いました。



話し合いの方法は、まず宿題で五感アンケートを実施しました。五感アンケートとは、記憶に残る魅力的な情景（景色、シーン、思い出）を五感を交えて記入するものです。記入したものを付箋に書いてグループでキーワードが似ているもの同士をまとめて気づき等の意見交換をしました。そして最後に「こうなって欲しいと願う未来の小値賀」と「今すぐにできること」をグループ全員で話し合いました。「こんな小値賀になって欲しい小値賀の未来」の意見では、『人のつながりがある小値賀』『もっと人が増えてほしい』『伝統の継承』などがありました。小値賀の現状と未来について深く考えるよい機会となりました。準備・サポートいただいた小値賀町役場総務課、（株）百代の皆さま大変お世話になりました。ありがとうございました。

## 幼児ふれあい体験：3年生（12月6日火曜日）2・3校時

家庭科の松本利恵先生の引率で、3年生による小値賀町立小値賀こども園の幼児ふれあい体験が行われました。この体験の目的は、「幼児を観察したり、実際に触れ合ったりすること



とおして、幼児への理解と関心を深め、接し方や話し方、遊びなどを工夫してより良い関わり方を身につけさせる。」ことと「幼児を支える大人の役割を理解することで、自分の成長と家族や地域の人々とのかわりに気づき、地域の中で協働しようとする意欲を高める。」ことです。

今回特に、コロナ対策として、密にならないように配慮しながら、手遊びや歌を教えたり、中学生が持参した牛乳パックこま回しをしたりして、たいへん楽しい交流ができました。こども園園長の植村敏彦様を始め、こども園の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。

## 人権学習会（12月7日水曜日）5・6校時

本年度の人権学習会も、本校職員がペアーになり、A～Eの5つの講座を開設し、生徒は希望をもとに、A講座は60分、それ以外の講座は30分を1コマとして2回受講しました。

講座名は、A:「『多様性』って何だろう？」 B:「障害者の人権について考えてみよう」 C:「知ってる？『半貧国』」 D:「インターネットって便利だけど、、、」 E:「世界の人権や新しい人権について考え、議論する」です。生徒は、これらの講座を受講して「人権」について学び、考えを深めることができたようです。

